

いじめ見逃しゼロに向けて力を合わせましょう

県教育委員会では、今年3月に「新潟県いじめ防止基本方針」を策定するとともに、学校、家庭、地域の強い連携の下で、「いじめを決して見逃さない、いじめを決して許さない」という意識を共有し、「いじめ見逃しゼロ」に取り組んでいます。

この「いじめ見逃しゼロ」の輪を県民の皆様に広げていきたいと願い、上・中・下越の各地区で「深めよう 絆 県民の集い」を開催しました。

上越地区
(10月5日)

リージョンプラザ上越で、城西中学校区小・中学校、上越市「能生地区元気印の会」、能生小学校による実践発表を行いました。

また、宮本延春氏（エッセイスト・元高校教諭）による「オール1先生からのメッセージ～子どもと大人でいじめゼロへ～」の講演を行いました。

中越地区
(9月24日)

長岡リリックホールで、オープニングは長岡市立総合支援学校高等部がバンド演奏とダンスを披露しました。

実践交流会では、津南中学校区小・中学校での取組や、赤城コマランドの取組発表を行いました。

「百ます計算」「陰山メソッド」で知られる陰山英男氏（立命館大学教授）による「大人の笑顔が子どもを伸ばす」の講演を行いました。

下越地区
(10月13日)

胎内市産業文化会館で、オープニングは新発田中央高校吹奏楽部による演奏が披露されました。

実践交流会では、中条中学校区小・中学校、駒林特別支援学校、阿賀野市「いちごみるく」、佐渡市「八幡・銀杏の会」が取組紹介をしました。

また、諸富祥彦氏（明治大学教授）による「いじめなど問題行動に対して、学校・家庭・地域で心がけたいこと」の講演を行いました。



「いじめ見逃しゼロ」を目指した児童生徒、地域の方々の活動発表や、著名な講師による講演を行い、社会全体の絆の中でいじめなどの問題を見逃さず、その解消や防止を図る気運を高めました。

平成25年度における県内のいじめの認知件数は… **1,394件**

（国公立の小・中・高・特別支援学校の認知件数）

いじめの認知件数は、平成24年度の1,673件より279件減少しています。また、いじめの解消率は95.3%となり、前年度より2ポイント下がっています。いじめは早期に発見し、深刻化しないうちに解消を図ることが重要です。

県教育委員会では、学校、家庭、地域が連携し明るい学校づくりに向けて取り組む「いじめ見逃しゼロスクール」など、地域との交流活動をととして、様々な方が児童生徒と関わる各種の取組を進めています。これらの取組により、大勢の目で子どもの小さな変化を見逃さないようにし、「いじめ見逃しゼロ」の実現を目指しています。各学校、地域で進められている取組への積極的なご協力をお願いします。

すべての高校生に
相談窓口啓発カードを配布しました

県教育委員会では、福祉保健部、県民生活・環境部と連携し、高校生の様々なこころの悩み等を相談するための窓口を掲載した相談窓口啓発カードを作成し、県内全ての高校生（約66,000人）に配布しました。

作成に当たっては、新潟産業大学経済学部平野実良氏と研究室の学生の助言指導を受け、高校生の立場から相談しやすい4つの相談窓口の選定やイラストの作成など、高校生の視点を生かしたカードを作成しました。

このような高校生向けのカードの作成配布は、初めての取組です。困った時は決して一人で悩まないように、カードを有効に活用してください。



裏表紙



表紙



中面

